

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第11週 （3月13日～3月19日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

高知県全域で注意報値である10.0を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第10週の10.00から第11週は11.31と横ばいでしたが、安芸で急増し、中央東で増加しています。県全域と幡多、中央東、中央西では注意報値を超えていることから引き続き注意が必要です。

迅速検査ではインフルエンザA型が92.83%、B型7.17%とB型がやや増加しています。

また、病原体検出情報では第10週に搬入された検体で須崎からInfluenza virus A H3 NTが1件、第11週に搬入された検体で須崎からInfluenza virus A H3 NTが2件、高知市からInfluenza virus B/Victoriaが1件検出されています。

学校等における集団発生の報告数も減少し、学年閉鎖の報告が1件となっています。

全国でも定点医療機関当たりの報告数は第9週の13.55から第10週では11.09と減少しています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第6～10週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く87.34%、次いでB（ビクトリア系統）が6.97%、B（山形系統）4.40%、AH1pdm09が1.28%の順でした。

県内におけるインフルエンザの報告数はピーク時（第5週：50.60件/定点）の約1/5に減少しましたが、流行は続いていますので、外出後の手洗い等の感染予防を心がけましょう。

症状がある方は咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も感染予防には有効です。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第11週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前		7週前	
	第11週		第10週		第9週		第8週		第7週		第6週		第5週		第4週	
	定当	状況														
高知県全域	11.31	○	10.00	○	14.73	○	24.02	○	33.67	△	41.63	△	50.60	△	39.94	△
安芸	4.50	-	1.50	-	3.75	-	7.25	-	14.50	○	26.75	○	26.25	○	32.00	△
中央東	12.27	○	6.64	-	9.45	-	16.00	○	30.73	△	37.82	△	34.91	△	36.27	△
高知市	9.50	-	9.13	-	15.44	○	28.38	○	39.31	△	52.06	△	67.44	△	48.88	△
中央西	10.60	○	11.40	○	20.00	○	28.00	○	40.80	△	52.40	△	69.00	△	40.80	△
須崎	9.00	-	8.50	-	18.50	○	40.75	△	37.00	△	37.25	△	38.25	△	21.75	○
幡多	18.63	○	20.50	○	20.88	○	23.88	○	29.88	○	28.88	○	45.38	△	39.63	△

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第11週	0	0	0	0	0	0	0
	累計	3	0	0	1	3	1	8
学年閉鎖	第11週	0	0	0	0	1	0	1
	累計	11	5	17	5	13	13	64
学級閉鎖	第11週	0	0	0	0	0	0	0
	累計	3	3	66	4	4	6	86

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生する水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- 咳・くしゃみが出たらマスクをしましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはフタつきのゴミ箱に捨てましょう。
- 咳・くしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗いましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- マスクの装着は説明書を読んで、正しく着用しましょう。

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザ Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

幡多で注意報値である 4.00 を超えています。

定点医療機関からの報告数は第10週の2.93から第11週では2.37と減少していますが、須崎で急増、安芸で増加し、幡多では6週連続して注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では12例の報告があり、うち1例はインフルエンザB型と溶レン菌感染症の同時感染でした。

感染症情報収集システム※でも17例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人、特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第10週の4.47から第11週では4.50と横ばいです。県全域から報告があり、幡多、中央東、須崎で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルス5例、ロタウイルス6例の報告があり、病原性大腸菌O25腸炎1例、病原性大腸菌O125腸炎1例、病原性大腸菌O1腸炎1例の報告がありました。感染症情報収集システム※でも19例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

また、病原体検出情報では第10週に搬入された検体で高知市と幡多からNorovirus GII NT が計3件、幡多からSapovirus genogroup unknown が1件検出されています。

乳幼児や高齢者、体力の低下している方は下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあります。

例年、3月から5月頃にかけて乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎の流行が認められるようになります。ロタウイルスによる胃腸炎では、嘔吐、下痢、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

ロタウイルスによる感染症の予防対策には予防接種があり、乳幼児を中心に受けることができますので、かかりつけの医療機関にご相談ください（任意接種）。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

調理をする場合には、中心部まで十分に加熱しましょう。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

- 厚生労働省 「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」

<https://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

- 厚生労働省「ロタウイルスに関する Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第 10 週の 0.25 から第 11 週では 0.25 と横ばいです。

定点医療機関からのホット情報では 3 例、感染症情報収集システム※では 9 例と以前に比べると報告数は減少してはいますが、引き続き注意が必要です。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

全てのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。

予防するためのワクチン等はありません。マダニは野外に生息しています。

暖かくなるとダニの活動が活発になり、人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。

野山や畑、草むら等に出かける時には長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、効果的な対策を自ら取ることが大切です。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2 週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

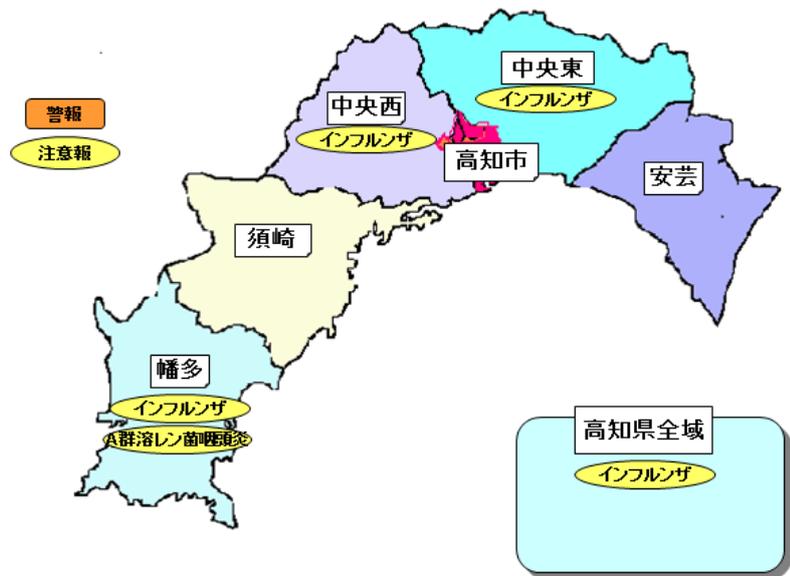
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 11週（3月13日～3月19日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	→	11.31	安芸で急増、中央東で増加し、県全域と幡多、中央東、中央西では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	4.50	幡多、中央東、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	2.37	須崎で急増、安芸で増加し、幡多では注意報値を超えています。
突発性発疹	↘	0.27	高知市、中央東、幡多から報告があります。
水痘	→	0.20	須崎で増加しています。

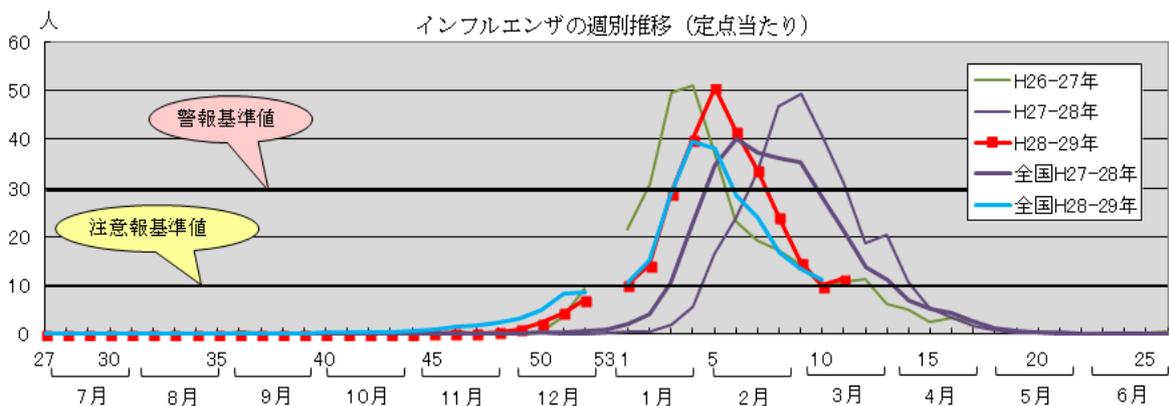
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

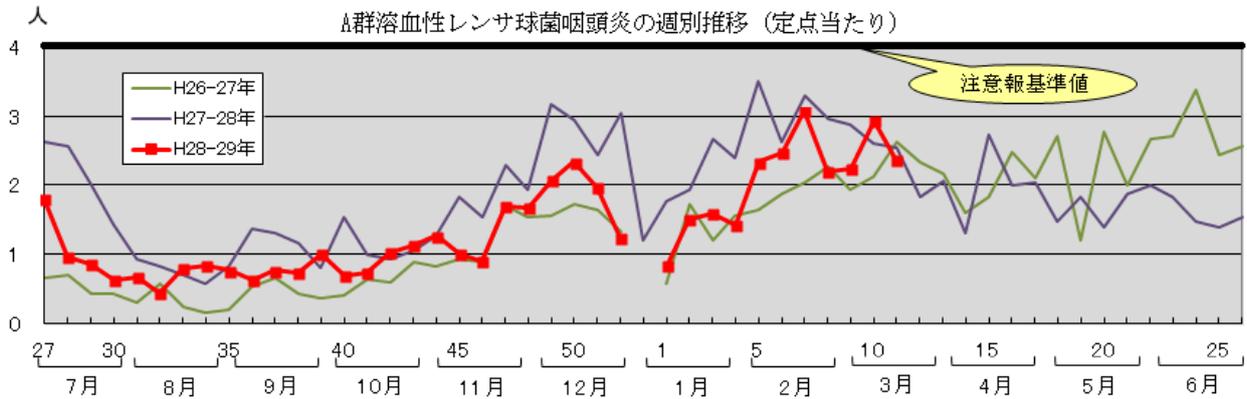
○インフルエンザ 第11週：11.31（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 11.31（前週：10.00）と横ばいです。安芸 4.50（前週：1.50）で急増、中央東 12.27（前週：6.64）で増加し、県全域と幡多 18.63（前週：20.50）、中央東 12.27（前週：6.64）、中央西 10.60（前週：11.40）では注意報値を超えています。



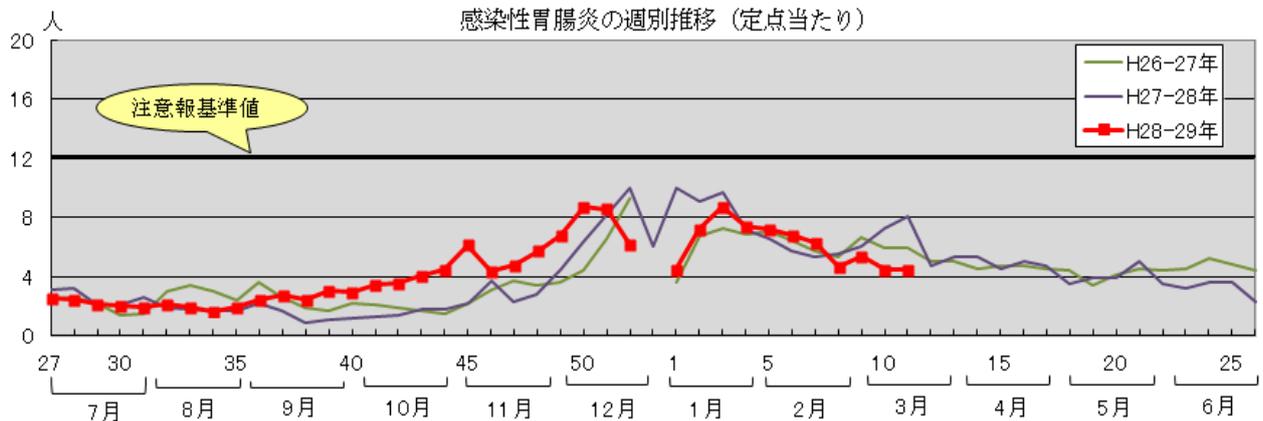
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第11週：2.37 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.37 (前週：2.93) と減少しています。須崎 3.00 (前週：1.00) で急増、安芸 1.50 (前週：0.00) で増加し、幡多 5.40 (前週：7.80) では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第11週：4.50 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.50 (前週：4.47) と横ばいです。幡多 7.80 (前週：5.00)、中央東 5.71 (前週：4.00)、須崎 4.00 (前週：2.50) で増加しています。



※グラフの途切れについて
 H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。
 そのため、H26-H27年とH28-H29のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
11	インフルエンザ	91	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
11	インフルエンザ	6	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
11	インフルエンザ	5	男	高知市	Influenza virus B/Victoria
11	百日咳	1	男	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
10	咽頭結膜熱	3	女	中央東	Human herpes virus 6
10	不明発疹症	1	男	須崎	Human herpes virus 7
10	インフルエンザ	93	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
10	感染性胃腸炎	1	男	高知市	Norovirus GII NT
10	感染性胃腸炎	9ヶ月	男	高知市	Norovirus GII NT
10	感染性胃腸炎	1	男	幡多	Norovirus GII NT
					Sapovirus genogroup unknown
10	急性咽頭炎	1	女	高知市	Rhinovirus

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
9	不明発疹症	7ヶ月	女	須崎	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	20	40歳代女	中央西
		1		60歳代女	
		1		70歳代男	
		1		80歳代男	
5類	アメーバ赤痢	1	2	40歳代男	高知市
	ウイルス性肝炎	1	1	30歳代男	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	2	70歳代女	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	5	60歳代男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	高知大学医学部附属病院 小児科	1例（7ヶ月女）ヒトメタニューモウイルス肺炎
	おひさまこどもクリニック	インフルエンザ 25例 全てA型 （13日1例、14日3例、15日2例、16日2例、17日5例、 18日12例）
	野市中央病院小児科	インフルエンザは全てA型 ワクチン済み：2例、ワクチン未：7例 合計9例
	早明浦病院小児科	ノロウイルス感染症 2例（1歳）
A型インフルエンザ 2例（6歳）		
溶連菌感染症 7歳、13歳は3回目再発		
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 3例（10歳女2人、10歳男）
		病原性大腸菌腸炎 O-25 6歳女
		病原性大腸菌腸炎 O-125 6歳男
		病原性大腸菌腸炎 O-1 15歳女
	高知医療センター小児科	インフルエンザ5例（3ヶ月男、8ヶ月女、10ヶ月男、6歳女、 14歳女）
	三愛病院小児科	ヒトメタニューモウイルス 1例（2歳女）
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザA型 5例、B型 5例、ワクチン接種済 3例
		溶連菌感染症 10例
インフルエンザB型と溶連菌感染症同時感染 1例（5歳女）		
ふないキッズクリニック	1歳男 感染性胃腸炎はロタウイルス迅速検査陽性	
細木病院小児科	ノロ3例（2歳男、8歳女、9歳男）	
中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザA（8歳女：須崎）
		インフルエンザB 44歳女
	石黒小児科	帯状疱疹 2例（9歳女、13歳男） インフルエンザA型 3例
須崎	もりはた小児科	インフルエンザ11例 全例A型
		ロタウイルス胃腸炎 5例
		帯状疱疹 1例（5歳男）
		ヘルペス性歯肉口内炎 1例（5歳男）
幡多	さたけ小児科	インフルエンザ26例（全てA型）
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 2例（1歳女、7歳女）

★全国情報

第9号（2月27日～3月5日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核357例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症9例

4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎5例、エキノコックス症1例、オウム病1例、ボツリヌス症1例、マラリア1例、レジオネラ症14例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症18例、急性脳炎9例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10例、後天性免疫不全症候群21例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性肺炎球菌感染症56例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒84例、風しん3例、麻しん4例

報告遅れ：腸チフス1例、E型肝炎3例、デング熱1例、レジオネラ症5例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎8例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒26例、
播種性クリプトコックス症2例、麻しん4例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

★注目すべき感染症

◆麻しん 2017年第1～9週（2017年3月8日現在）

典型的な麻しんは高熱、全身の発疹、カタル症状を特徴とし、空気感染を主たる感染経路とする感染力の非常に強いウイルス感染症である。肺炎、脳炎等を合併して死亡することもあり、事前に予防接種を受けることで予防が可能である。日本は現在、2015年3月に国際的な認定を受けた国内における麻しんの排除状態を維持すること（麻しんに関する特定感染症予防指針、2007年12月28日告示）を麻しん対策の目標にしている。しかし、海外の多くの国では、麻しんが流行しており、わが国でも海外からの麻しんウイルスの輸入が継続して起きている。また、輸入例を発端とした感染拡大（渡航歴のある患者や、その接触者からの患者の発生）が2017年にも起きているため、本稿は、主に感染症発生動向調査に基づく国内の麻しんの直近の疫学状況に関する情報を提供することを目的とした。

2017年第1～9週に診断された麻しん症例数（2017年3月8日現在）は44例であり（前年同時期は2例）、うち、検査診断例が43例（98%）であった（麻しん：27例、修飾麻しん：16例）。男性25例、女性19例であり、年齢中央値は25歳（範囲0～53歳）であった。この間の都道府県別の報告数は三重県20例、広島県7例、香川県4例、東京都、福岡県各3例、大分県2例、埼玉県、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県各1例であった。推定感染地域は国内が35例、国外が9例（インドネシア3例、ネパール、ミャンマー、タイ、ニュージーランド、ベトナム、ガボン各1例）と報告されていた。ワクチン接種歴については、接種歴無しが11例（25%）、不明が14例（32%）、1回が13例（30%）、2回が6例（14%）であった。2回接種歴有りの6例のうち5例は軽症で非典型的な修飾麻しんであった。接種歴無しの11例は、全て検査診断例で、そのうち9例は、より重篤で典型的な麻しんであった。麻しんウイルスの遺伝子型は10例で報告されており、その内訳はD8型8例、B3型1例、H1型1例、NT（Not Typed）1例であった〔麻疹ウイルス分離・検出状況（2017年3月10日現在）〕。

麻しんは、年齢にかかわらず命に関わる重篤な疾患である。また、その感染拡大防止のためには、集団免疫を維持するための麻しん風しん混合ワクチンの2回の定期接種の徹底に加えて、感染者の早期探知と迅速な対応も欠かせない。発熱・発疹を呈する急性感染症の患者が医療機関を受診する際に、重要となるのが問診であり、医療関係者が発熱・発疹患者に対して聞き取りを行う場合には、麻しんを意識した診療を行うこと、麻しんの流行国を把握し（例、西太平洋地域における麻しん・風しん流行状況）、渡航歴や発熱・発疹患者との接触歴、予防接種歴などの確認を慎重に行うことが重要である。

さらに、日本国内に海外から麻しんウイルスが輸入されないために、海外渡航者に対しては、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じて渡航前にワクチン接種が行われることが推奨される。2016年の関西国際空港の事例においては、定期接種の着実な実施による集団免疫効果や、積極的疫学調査等の取り組みにより大規模な感染拡大には至らなかったが、人の移動がよりグローバル化している昨今においては同様のリスクは常にあると認識しておく必要がある。また、海外からの麻しんの輸入例に対しては、最初に患者と接する可能性が高いのが医療機関であることから、事前の予防策として、事務職を含むあらゆる医療関係者においては、2回の麻しん風しん混合ワクチン接種歴の確認と必要な場合の接種の推奨が重要であることを改めて強調したい。また、麻しんと診断した場合に都道府県知事等へ速やかに届け出ること、麻しんの感染力の強さに鑑みた院内感染対策を実施することが重要である。

また、麻しん風しん混合ワクチンの安定供給のため、厚生労働省の以下の通知（平成28年9月9日）を参考頂きたい（麻しんの広域的発生に伴う乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの供給に係る対応について）。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第11週 平成29年3月13日(月)～平成29年3月19日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計) H29/1/2～H29/3/19	全国(10週末累計) H29/1/2～H29/3/12
小児科	インフルエンザ		18	135	152	53	36	149	543 (11.31)	480 (10.00)	55,004 (11.09)	13,397 (279.10)	1,122,584 (226.33)
	咽頭結核熱			1	1				2 (0.07)	5 (0.17)	1,249 (0.39)	62 (2.07)	10,731 (3.39)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	2	31	2	6	27	71 (2.37)	88 (2.93)	8,247 (2.61)	689 (22.97)	66,915 (21.16)
	感染性胃腸炎		7	40	39	2	8	39	135 (4.50)	134 (4.47)	17,679 (5.59)	2,012 (67.07)	182,704 (57.76)
	水痘		1	2	2		1		6 (0.20)	7 (0.23)	1,117 (0.35)	121 (4.03)	11,367 (3.59)
	手足口病								()	1 (0.03)	403 (0.13)	15 (0.50)	4,720 (1.49)
	伝染性紅斑							1	1 (0.03)	3 (0.10)	257 (0.08)	47 (1.57)	2,639 (0.83)
	突発性発疹			2	5			1	8 (0.27)	10 (0.33)	1,253 (0.40)	91 (3.03)	11,617 (3.67)
	百日咳				1				1 (0.03)	3 (0.10)	35 (0.01)	12 (0.40)	230 (0.07)
	ヘルパンギーナ								()	1 (0.03)	58 (0.02)	2 (0.07)	738 (0.23)
	流行性耳下腺炎				2		1		3 (0.10)	10 (0.33)	2,050 (0.65)	76 (2.53)	20,822 (6.58)
	RSウイルス感染症					3			3 (0.10)	9 (0.30)	737 (0.23)	170 (5.67)	9,717 (3.07)
	眼科	急性出血性結膜炎								()	()	13 (0.02)	()
流行性角結膜炎					1				1 (0.33)	()	308 (0.45)	6 (2.00)	3,398 (4.90)
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	8 (0.02)	1 (0.13)	85 (0.18)
	無菌性髄膜炎								()	()	13 (0.03)	2 (0.25)	148 (0.31)
	マイコプラズマ肺炎				2				2 (0.25)	2 (0.25)	160 (0.34)	40 (5.00)	2,351 (4.96)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				1				1 (0.13)	2 (0.25)	5 (0.01)	5 (0.63)	63 (0.13)
	感染性胃腸炎							2	2 (0.25)	()	186 (0.39)	8 (1.00)	762 (1.61)
計 (小児科定点当たり人数)		29 (10.00)	182 (18.99)	237 (16.86)	60 (12.94)	52 (17.00)	219 (32.23)	779 (18.98)			88,782	16,756 (389.01)	1,451,663
前週 (小児科定点当たり人数)		19 (8.00)	113 (12.07)	268 (20.02)	72 (16.40)	47 (15.00)	236 (34.90)		755 (19.02)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(10週)	高知県(11週末累計) H29/1/2～H29/3/19	全国(10週末累計) H29/1/2～H29/3/12
小児科	インフルエンザ		4.50	12.27	9.50	10.60	9.00	18.63	11.31	10.00	11.09	279.10	226.33
	咽頭結核熱			0.14	0.09				0.07	0.17	0.39	2.07	3.39
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.50	0.29	2.82	0.67	3.00	5.40	2.37	2.93	2.61	22.97	21.16
	感染性胃腸炎		3.50	5.71	3.55	0.67	4.00	7.80	4.50	4.47	5.59	67.07	57.76
	水痘		0.50	0.29	0.18		0.50		0.20	0.23	0.35	4.03	3.59
	手足口病								()	0.03	0.13	0.50	1.49
	伝染性紅斑							0.20	0.03	0.10	0.08	1.57	0.83
	突発性発疹			0.29	0.45			0.20	0.27	0.33	0.40	3.03	3.67
	百日咳				0.09				0.03	0.10	0.01	0.40	0.07
	ヘルパンギーナ								()	0.03	0.02	0.07	0.23
	流行性耳下腺炎				0.18		0.50		0.10	0.33	0.65	2.53	6.58
	RSウイルス感染症					1.00			0.10	0.30	0.23	5.67	3.07
	眼科	急性出血性結膜炎								()	()	0.02	()
流行性角結膜炎					1.00				0.33	()	0.45	2.00	4.90
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	0.02	0.13	0.18
	無菌性髄膜炎								()	()	0.03	0.25	0.31
	マイコプラズマ肺炎				0.40				0.25	0.25	0.34	5.00	4.96
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				0.20				0.13	0.25	0.01	0.63	0.13
	感染性胃腸炎							2.00	0.25	()	0.39	1.00	1.61
計 (小児科定点当たり人数)		10.00	18.99	16.86	12.94	17.00	32.23	18.98			389.01		
前週 (小児科定点当たり人数)		8.00	12.07	20.02	16.40	15.00	34.90		19.02				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869